

取扱説明書

ハーフティラー

“ミニ耕耘機”

HT40W



0026-70030



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社 オーレック

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なメンテナンス方法について説明しております。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分に理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

《本製品の規制について》

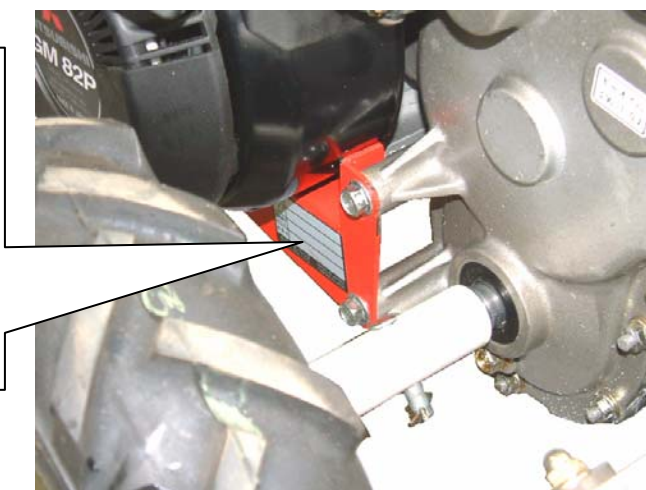
本製品は、畑の耕耘機として開発しておりますので、これ以外の用途には使用しないで下さい。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間(業務用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。

※商品型式・製造番号記載場所について（本体エンジンベース部）

種類 Description	農用トラクタ（歩行型）
型式名 Model	HT40W
製造番号 Serial No.	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
発売元	(株)オーレック
株式会社 オーレック OREC CO., LTD. MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON	






「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合がございます。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただく場合もございます。

《定義とシンボルマークについて》

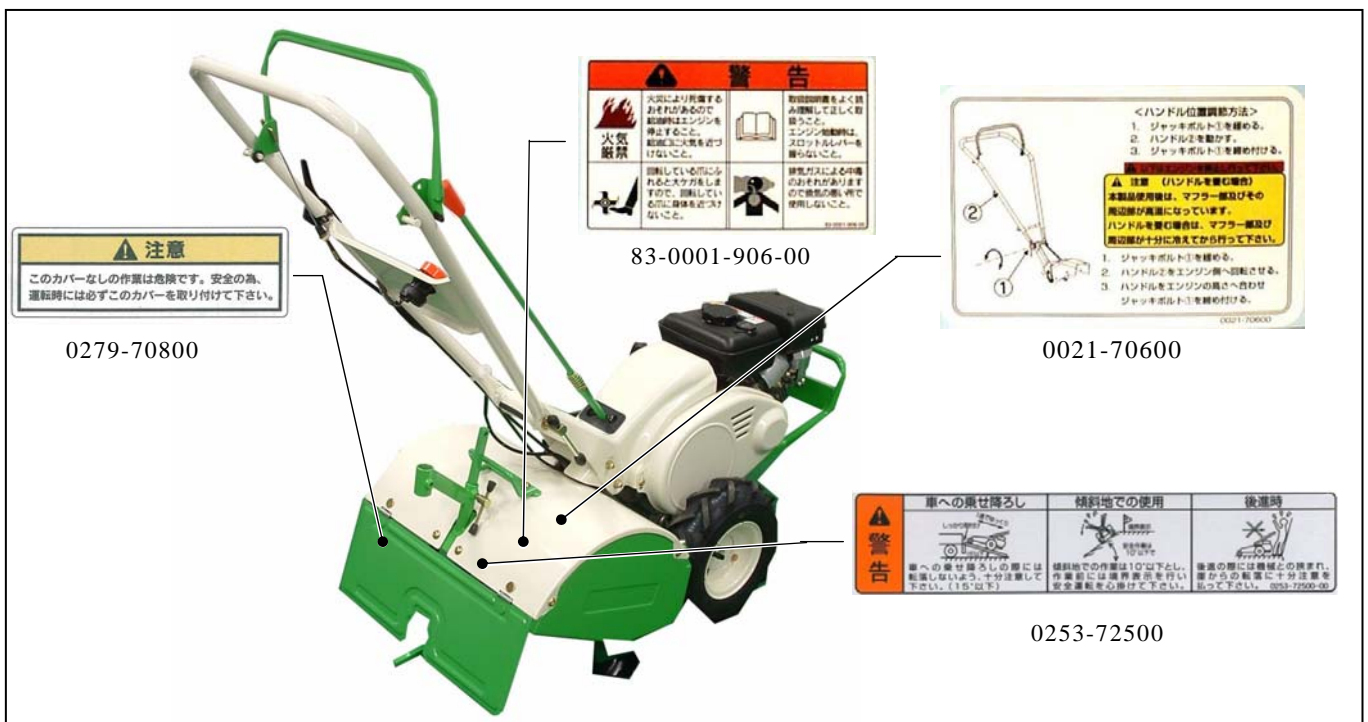
本書では、危険度の高さ（又は事故の大きさ）に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定 義
 危 険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警 告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注 意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考；	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすい操作に関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

（１）警告表示マーク

- ・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。
- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにして下さい。 〈22頁…消耗品明細 参照〉
- …本機はガソリンを燃料としており作業中はもちろん、機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





0019-70800

(2) 作業前の注意

- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の方は使用しないで下さい。
- ・過労、病気、薬物、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業をさせないで下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者にも作業をさせないで下さい。
- ・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子等を必ず使用して下さい。

▲ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

- ・必ず、タイヤセットピンが確実に締まっているか点検し、不完全な場合には確実にセットして下さい。

▲ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・主クラッチが「切」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤーを調整して下さい。
- ・10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

▲ 斜面で不要に主クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

- ・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全を確認し平坦地を走行して下さい。

▲ 暗い時、視界が悪い時の使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できない場合は使用しないで下さい。

- ・安全作業の障害となるような本機の改造（夜間作業用のライトの装着、ロータリーカバーの一部切断等）は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

（３）燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎた時はマーク以下になるまで抜き取り、周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

▲ 給油は火災や火傷の危険がありますのでマフラの温度が十分に下がってから行って下さい。

（４）始動時の注意

- ・エンジンの回りや排気ガス方向には燃えやすい物を近付けないで下さい。
- ・回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

（５）積み降ろし時の注意

〈13 頁…参照〉

- ・平坦で安全な場所を選び、搭載時に車が動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車輪止めをして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け緩やかな勾配とし、エンジン回転を下げ、変速レバーは『走行』位置にしてゆっくりと行い、その他の位置には絶対に入力しないでください。

▲ 本機は走行速度が速いため、エンジンの回転を上げた状態で主クラッチを入れると急発進する可能性があり大変危険です。必ずエンジンの回転を下げた状態で上記作業を行って下さい。

- ・2人で持ち上げて積み下ろしを行う場合はハンドルを折りたたみ、前方側はバンパーを後方側は運搬ハンドルをしっかりと持って行って下さい。

（６）作業中の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛けて下さい。

▲ エンジン回転中、排気マフラは高温となります。本機操作時等にマフラに手をかけると、火傷を負います。

- ・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時はすぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。
- ・固い圃場では、本機がロータリー回転の反力で前方へ飛び出す事があり危険です。このような場所では耕深を浅くし2回に分けて使用する等し、抵抗棒があるものは指示に従って下さい。

▲ 回転部分は危険です。とくにロータリーカバー内は危険ですので、身体を近付けないで下さい。

▲ 冷却風の吸込口、シリンダ付近の泥、草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因になります。外側のみならず内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

⚠ 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に作業を始めて下さい。

- ・作業中、石・木株等に当たった時は直ちにエンジンを停止し、中耕爪の欠けや曲がりの有無を調べて下さい。

(7) 作業終了後の注意

- ・本機より離れる時は、必ずエンジンを停止して下さい。
- ・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

(8) 点検・整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

⚠ ベルトやロータリ部の安全カバー、及び飛散防止用リヤガードの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理して下さい。

- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
- ・爪取付けボルトは安全のため、耕うん爪交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

⚠ ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には締め付けバンドと共に新品と交換して下さい。

- ・主クラッチ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐためマフラやエンジン本体の冷却状態を十分に確認した上で行って下さい。

《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

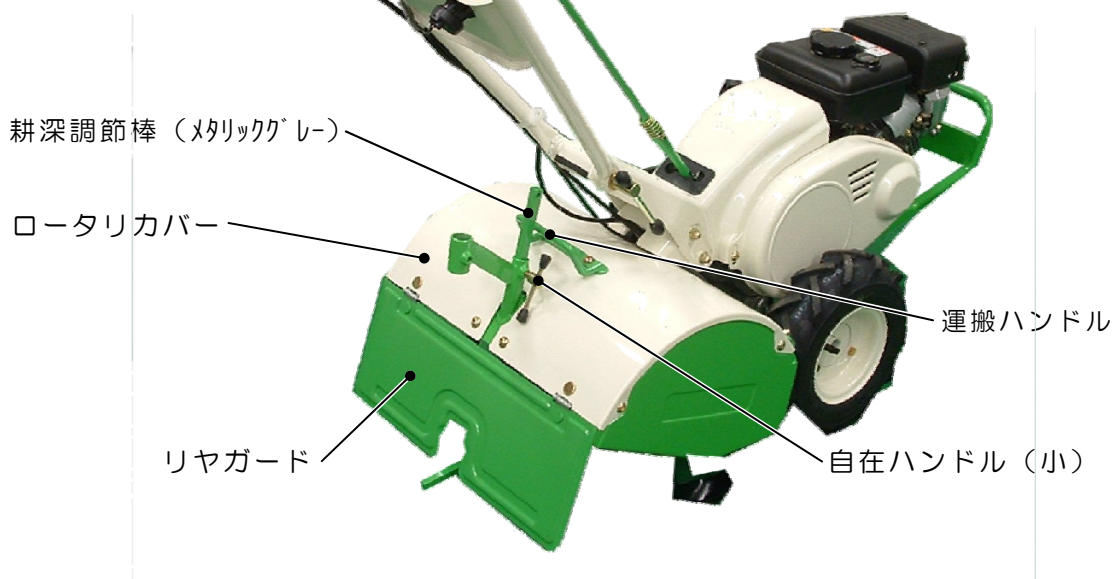
《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。



《各部の名称》



《各部のはたらき》

①主クラッチレバー

レバーを握ると「入」、離すと「切」位置となるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

②変速レバー

変速段数は「耕うん」、「走行」の2段変速で、「耕うん」位置ではロータリが回転し作業を行うことができます。

③らくらくアンカー

耕うん作業中、ロータリの回転反力で本機が前に飛び出す(ダッシング)のを抑えます。

④耕深調節棒

耕うん深さの調節を行います。

横についているネジ(自在ハンドル(小))を緩めて任意の高さに合わせて下さい。

◎耕深調節棒を「上」にする…深く耕す

◎耕深調節棒を「下」にする…浅く耕す

⑤ハンドル締め付けボルト(自在ハンドル(大))

作業者の体格に合わせて調節できます。

ハンドル締め付けボルトを緩めて上下の調整をし、適当な高さで固定して下さい。

固定する際はハンドル根元の菊座(ギザギザの山と谷)がきちんと噛み合う位置にし、隙間が出来ないように締めて下さい。

⑥スロットルレバー

エンジン回転の 高・低 調整 をおこないます。

⑦エンジンスイッチ

エンジンの回転を「入(運転)」、「切(停止)」します。

スイッチを「入(運転)」にする場合は赤い部分を押しながら右に回し、黒い印を(運転)の位置にして下さい。

スイッチを「切(停止)」にする場合は赤い部分を押しだけで「切(停止)」に戻ります。

⑧リヤガード

足が入り込むのを防ぎます。

耕うんの際は安全の為、必ずリヤガードを下げた状態で行ってください。

〈8 頁…上手な運転のしかた 参照〉

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈25頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

⚠ 警告： 本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジン始動・停止のしかた

⚠ 危険

① 締め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。

… 締め切った室内でエンジンを始動すると …

有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。

② ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火する可能性があります。絶対に行わないで下さい。

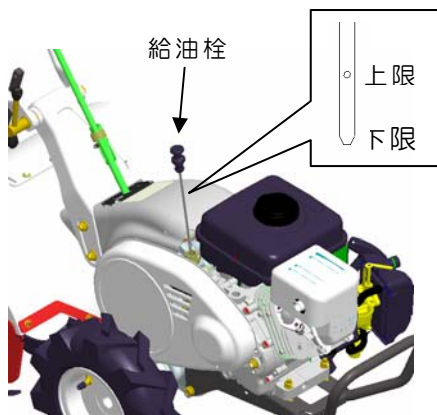
③ エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

④ エンジンの暖機運転は、閉めきった部屋では行わないで下さい。

⚠ 注意

エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

■ エンジン始動のしかた



① エンジンオイルを確認して下さい。

◎ 給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上の目盛穴と下端の間にオイルがなければ上の目盛線付近にオイルが付くようエンジンオイルを補給して下さい。

参考：

- ・ エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- ・ 使用するエンジンオイルは SD 級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季 (10° C 以上)	SAE30, SAE10W-30, 又は SAE40
冬季 (10° C 以下)	SAE5W20, 又は SAE10W-30

▲ 警告

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラーが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。

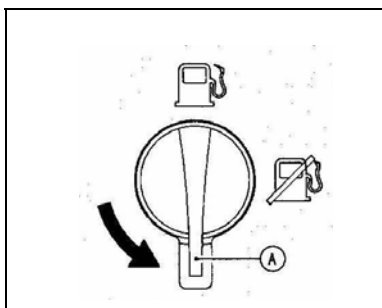



② 燃料を確認して下さい。

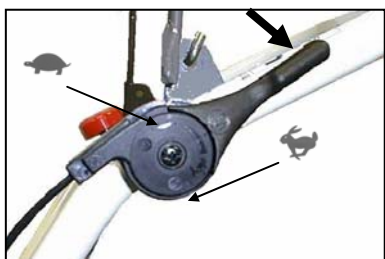
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。


〈燃料タンク容量は1.9㍓〉

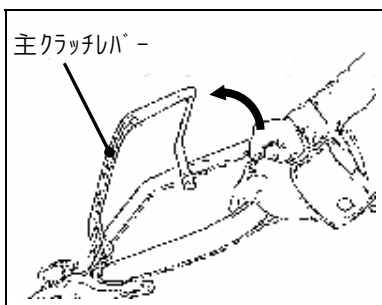
- 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
- 特に傾斜地での使用は、燃料の入れ過ぎによる燃料もれに注意して下さい。



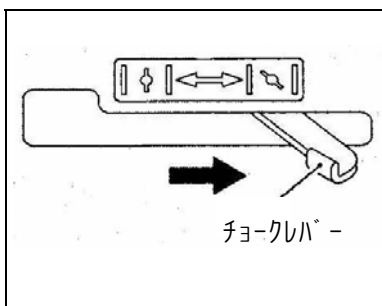
③ 燃料コック (A) を  「開(ON)」位置にして下さい。




④ スロットルレバーは「」、「」の中間位置にして下さい。



⑤ 主クラッチレバーから手を離して下さい。



⑥ チョークレバーを「閉」  位置にして下さい。

参考：

エンジンが暖機されている場合には、チョークレバーの操作は必要ありません。



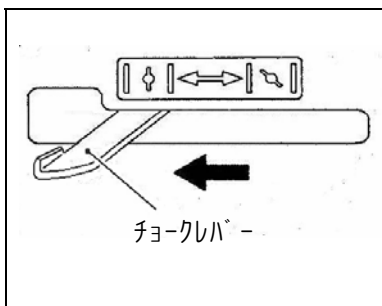
⑦ エンジンスイッチ（赤い部分）を右に回し、「**運転(ON)**」位置にして下さい。



⑧ スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ります。

参考：

エンジンの始動後は、直ちにスタータノブは元の位置に戻して下さい。

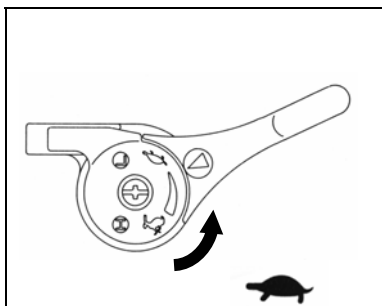


⑨ エンジン始動後は、チョークレバーを戻し、「**開**」位置にして5分程度の暖機運転を行って下さい。

参考：

暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。

■ エンジン停止のしかた



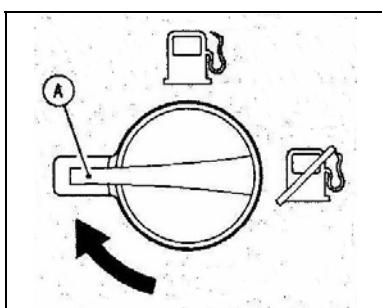
⑩ スロットルレバーを『』位置にして下さい。



⑪ エンジンスイッチを押して「**停止(OFF)**」位置にし、エンジンを停止して下さい。

参考：

スイッチを「**停止(OFF)**」にする際は赤い部分を押すだけで停止側に戻ります。



⑫ 燃料コック（A）を  「**閉(OFF)**」位置にして下さい。

走行・変速・停止（駐車）のしかた

▲ 警告

- 所有者以外の人には使用させないで下さい。
- 走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- 側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- 勾配が 10° 以上の傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。

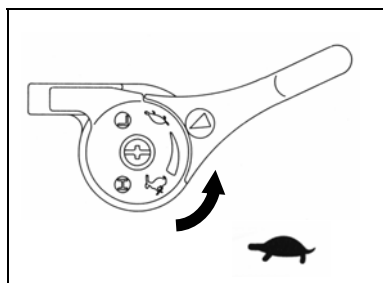


■ 走行のしかた

- ①エンジンを始動させて下さい。
〈8 頁エンジン始動のしかた参照〉
- ②変速レバーを「耕うん」・「走行」の中から所要の変速位置に確実にに入れて下さい。

▲ 注意

変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあります。操作がやりにくい場合には、無理に入れずに主クラッチレバーを「入」方向へ少し動かしてから再度、操作を繰り返して下さい。

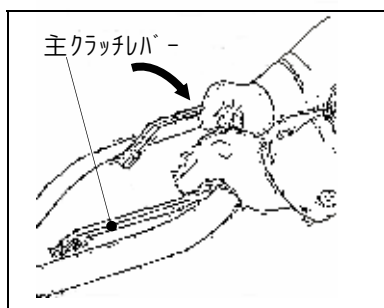


- ③スロットルレバーを「低速」位置とし、主クラッチレバーをハンドルと一緒に握ると走行を開始します。

▲ 注意

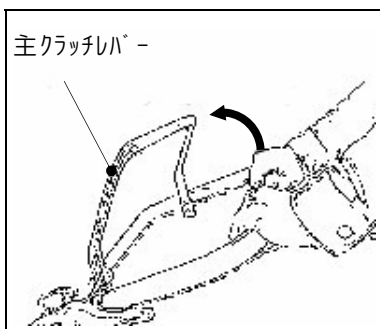
走行時の速度は比較的速いため、変速レバーを「走行」に入れた際はスロットルレバーが「中速」以下になっていることを確認してから、主クラッチレバーとハンドルと一緒に握って下さい。

- ④旋回をする場合には、ロータリ部を地面より少し浮かしながらハンドルを旋回方向へ振って旋回して下さい。



▲ 注意

旋回時は、ロータリへの巻き込まれ等に十分注意して下さい。



■ 変速のしかた

①主クラッチレバーから手を離し「切」位置にしてください。

▲ 注意

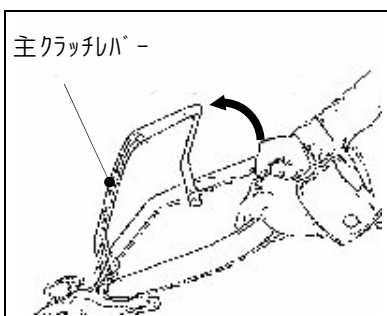
走行しながらの変速操作は危険なばかりでなく、本機にも悪影響を与えます。

②変速レバーを操作し、所要の変速位置へ確実に変速して下さい。

▲ 注意

変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあります。操作がやりにくい場合には、無理に入れずに主クラッチレバーを「入」方向へ少し動かしてから再度、操作を繰り返して下さい。

③再発進して下さい。



■ 停止（駐車）のしかた

①主クラッチレバーから手を離し、本機を停止させて下さい。

②変速レバーを「中立」位置にし、本機を離れる場合には必ずエンジンを停止して下さい。

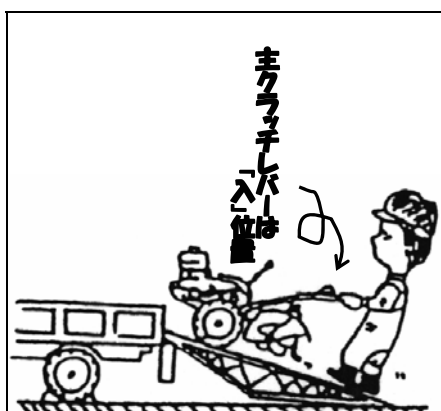
〈10 頁エンジン停止のしかた参照〉

自動車への積み降ろしのしかた


▲ 警告

- 運搬に使用する自動車は、搭載スペースが充分ある車種（トラック、ワゴン等）を使用して下さい。＊ハンドルを折りたたむと一部の普通乗用車に搭載可能です。
- 自動車への積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- トラックへの積み降ろしの際には耕うん爪がブリッジと接触しない様、ハンドルを少し持ち上げ気味にして下さい。
積み降ろしの際に耕うん爪がブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。
- ・ トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車輪止め」をして下さい。
- ・ 本機の正面は危険です。正面には立たないで下さい。
- ・ ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・ 積み降ろし時に、ブリッジ上でレバー類の操作はしないで下さい、転倒の恐れがあります。
- ・ 本機の左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。
- ・ 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・ トラックに積んで移動する時には、変速位置を「耕うん」とし、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう「車輪止め」を掛ければさらに安全です。

■ 積み降ろしのしかた



○ 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。

- ① 基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ② スロットルレバーは「」の位置にして、主クラッチレバーを握って下さい。
- ③ 積み込む場合は「走行」、降ろす場合は「中立」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。

▲ 注意

- ・ ブリッジを使用して積み降ろす場合
変速レバーが「中立」位置の為、充分注意して下さい。また、エンジンは必ず停止して下さい。
- ・ ブリッジを使用しないで積み降ろす場合
ハンドルを折りたたみ、前方は「バンパー」、後方は「運搬ハンドル」を可能な限り2人以上で分担して持ち上げ、十分に注意して作業して下さい。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅…本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

耕うん作業のしかた

▲警告

- ロータリカバー内の草やその他の異物を取り除く場合には、必ずエンジンを必ず停止した後に行ってください。エンジンが回っている時にこれらの物を取り除く際、不意にローターが回りだした場合大変危険です。
- 作業中はハンドルを両手でしっかりと握り、ロータリ部を少し押し付けるようにして作業をして下さい。
- 転落や衝突事故を防ぐため、建物、川や崖、人のいる方向へ向かっての作業は行わないで下さい。
- ハンドルから手を離すと本機は停止します。緊急の場合にはまず、ハンドルから手を離して本機を停止させて下さい。又は、エンジンスイッチを押してエンジンを緊急停止させて下さい。
- 主クラッチレバーは必ず手で操作し、その他のヒモや針金等で固定して使用しないで下さい。非常時に停止操作が遅れ、重大な人身事故を招く恐れがあります。

▲警告

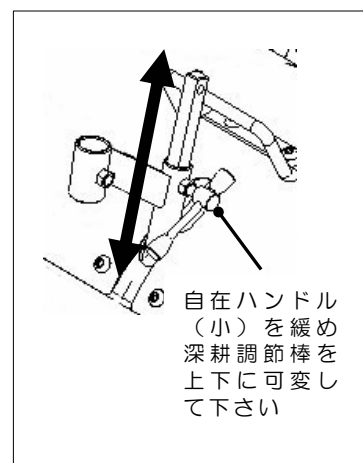
ダッシング…ローターの回転により本機が前進方向に勢いよく飛び出すこと。

特に固い圃場や石等の異物の多い圃場で起き易い。

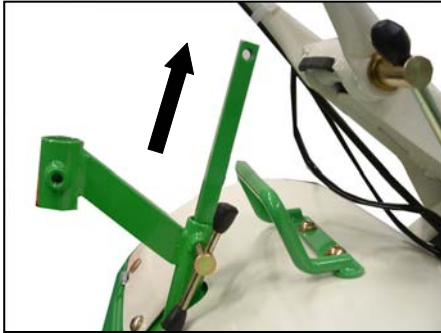
*作業中のダッシングを最小限に抑えるため“らくらくアンカー”は必ず取り付けて作業して下さい。

固い圃場での耕うん作業

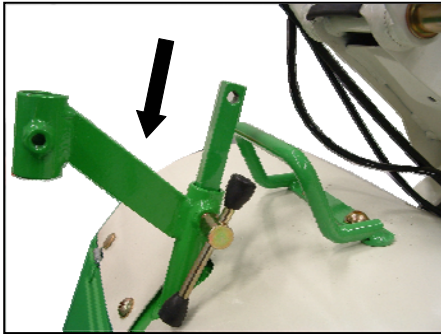
- ・最初から深く耕そうとするとダッシングが起り易く危険です。最初は耕す深さを浅めにし、2回目以降徐々に深くし、同じところを数回繰り返す必要な深さまで耕して下さい。
- ・圃場状態に応じて、ローターに掛かる負荷をハンドルで加減しながら作業をしてください。



耕うん深さの換えかた



深くなる



浅くなる

耕うん深さの調節は、耕深調節棒の上下によって行います。調節は任意です。

自在ハンドル（小）を緩め耕深調節棒の固定を解除してから上下させ、所要の位置で再び自在ハンドル（小）をしっかり締めて固定して下さい。

耕深調節棒を「上」にする…深くなる

耕深調節棒を「下」にする…浅くなる

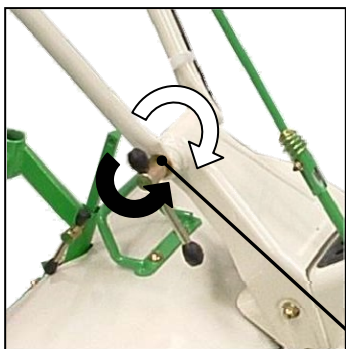
参考：

「耕深調節棒」の操作が重くなったときにはロータリカバー内の「耕深調節棒」の可動部分に詰まった泥草等の異物を取り除き、エンジンオイルを注油して下さい。



▲ 警告

- ・ロータリカバー内の清掃は必ずエンジンを停止した後に行ってください。エンジンをかけたままの清掃は、急にロータリが回転した場合非常に危険です。
- ・石等の固い異物が多い畑や、土がしまって固い畑などでの使用は機械の飛び出し(ダッシング)が多く危険なばかりでなく、本機の故障の原因ともなりますので、石等の固い異物は事前に取り除き、土がしまって固い畑では浅く数回に分けてご使用下さい。

作業や体格にあわせたハンドル高さの調整



ハンドル高さは、作業や使う人の体格によって任意に調整することができます。

自在ハンドル（大）を緩め（）ハンドル固定を解除し、適当な位置で再び締め付け（）て固定して下さい。

▲ 警告

作業中、回転しているロータリカバー内部に手や足が入ると大ケガをする恐れがあります。耕うん作業中は必ずロータリカバー内には手や足を入れしないで下さい。

参考：

湿った圃場での作業では、ロータリカバー内に泥が付着し、タイヤがスリップしたり、エンジンがストップしたりする事があります。このような場合にはエンジンを停止し、付着した泥を取り除いて下さい。

上手な作業の例

■ 固い畑での作業

固い畑を耕うんする場合には、3回位に分けて少しずつ仕上げるつもりで作業をして下さい。

① 1回目

- ・ 耕深調節棒は浅めにして下さい。
- ・ 本機がダッシングするときには、ハンドルを軽く持ち上げ気味にするとスムーズな作業ができます。

② 2回目

- ・ 耕深調節棒は浅めにして下さい。
- ・ 本機がダッシングするときには、ハンドルを軽く持ち上げ気味にするとスムーズな作業ができます。

③ 3回目(仕上げ作業)

- ・ 耕深調節棒はやや深めにして下さい。

- 種を蒔いたり、苗を植えるのに適した仕上がりとなります。

□ 普通の畑での作業

普通の畑を耕うんする場合には、2回位に分けて仕上げるつもりで作業をして下さい。

① 1回目

- ・ 耕深調節棒は浅めにして下さい。
- ・ 本機がダッシングするときには、ハンドルを軽く持ち上げ気味にするとスムーズな作業ができます。

② 2回目(仕上げ作業)

- ・ 耕深調節棒はやや深目にして下さい。

- 種を蒔いたり、苗を植えるのに適した仕上がりとなります。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

▲ 注意

- 当製品は、エンジンオイル・ギヤオイルともに注油済みとなっています。
ご使用前には必ず各部のオイル量を確認して下さい。
- ・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを（約5分以上）待ってから作業を行って下さい。

…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

- エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
- ・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。
- ・安全のため、作業が終了するまで点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

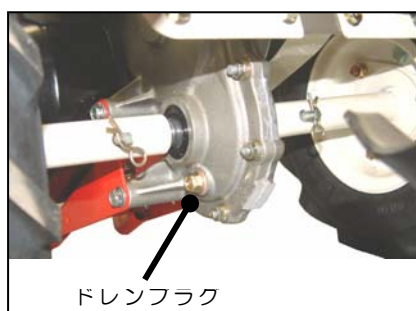
■交換後の廃油は適切な処理をして下さい。■

ミッションオイルの点検・交換・注油



◎点検…

点検は、ミッションケース右側面上部の注油栓を外して確認して下さい。注油口を通してミッションオイルが目視で確認できればほぼ規定量のミッションオイルが入っています。



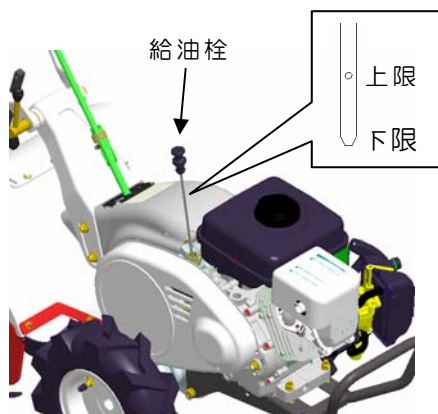
◎交換・注油…

交換は、オイルを受け取る適当な容器を用意し、初回は20時間、それ以降は100時間毎を目安にミッションケース左側面下部のドレンプラグ(排油栓)を外して行って下さい。注油は、ドレンプラグ(排油栓)を取り付けた後、注油口よりミッションオイル(#90)を0.8リットル入れて下さい。

- 注油後は、オイル漏れのないように注油栓をしっかり締め付けて下さい。
- ドレンプラグ排油栓のガスケットが取り付け面に接触してから更に3/4回転ねじ込んで下さい。

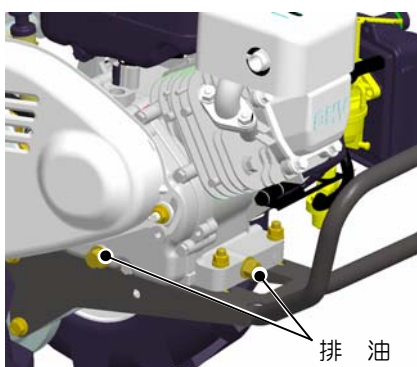
エンジンオイルの点検・交換・注油

エンジンオイル



《点 検》

- ①毎日、もしくは8時間毎にエンジンを水平にしてオイルの量・質を点検してください。
- ②図の給油栓がオイルゲージを兼用しています。
- ③給油栓を引き抜き、上の目盛穴と下端の間にオイルが無ければエンジンオイルを補給してください。
(給油栓を奥まで挿し込んで計測します。)



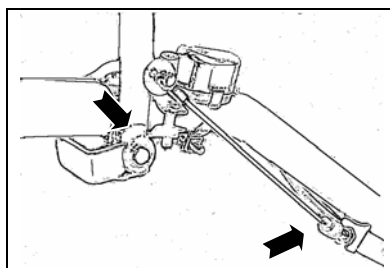
《交 換》

- ①排油を受ける容器を準備し、給油栓を外し、エンジン下部の排油栓(ドレンプラグ)を取り外し、容器にオイルを排出してください。
- ②排油栓を取り付け、新しいエンジンオイルを規定量まで給油した後、給油栓を締め付けてください。

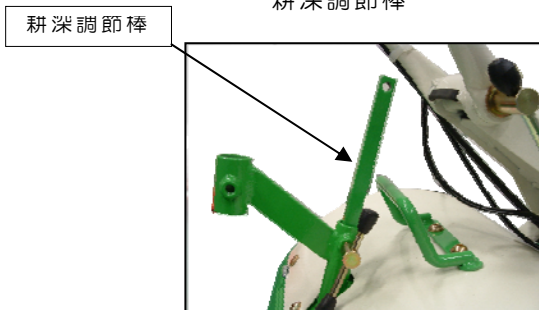
各部への注油のしかた

- 約30時間毎にエンジンオイル(#30)を操作しながら注油して下さい。
注油を怠ると、油切れにより操作が重くなり、破損する恐れもあります。

主クラッチワイヤ・レバー支点



耕深調節棒



《各部の点検・整備・調整のしかた》

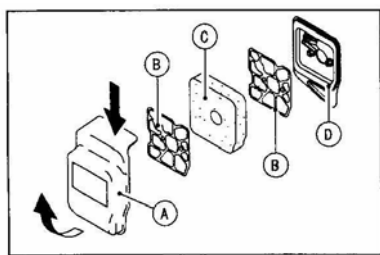
エアクリーナの清掃のしかた

⚠ 危険

- エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料へ引火、火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に清掃して下さい。
…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。ゴミやほこりを吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

⚠ 警告

- 洗い油には引火性の低い灯油を使用して下さい（火の気に注意）。
- 清掃は換気の良い場所で行って下さい。



A.エアクリーナケース
B.プレート
C.エレメント
D.エアクリーナボディ

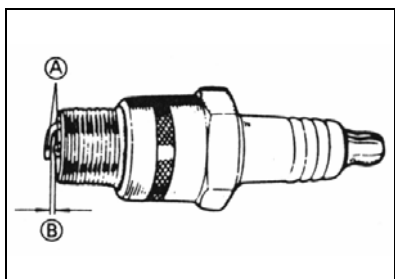
- ①エアクリーナケースの上側を手で軽く押し下げながら、下側を手前に引いて取り外し、ホコリやゴミを気化器側に入れないように注意深くエレメントを取り外して下さい。
- ②エレメントを洗い油又は水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞って乾かして下さい。
- ③エレメントを新しいエンジンオイルに浸した後、固く絞って下さい。
- ④エレメントを元通りに取付、カバーを元通りに取り付けて下さい。

《清掃時期》

25時間毎、ほこりの多い場合は10時間毎

- チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するよう心掛けて下さい。

点火プラグの点検・調整のしかた



- ①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ⓐにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③点火プラグの電極隙間Ⓑを 0.7～0.8mm に調整して下さい。

参考；

締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

始めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

<点火プラグ基準…NGK BR6HS>

燃料パイプの点検のしかた

危険

- ・くわえたばこや裸火照明での作業禁止
- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。
締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。
- ・交換時、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

タイヤ空気圧の調整のしかた

- ・タイヤ空気圧のチェックを下表に従って行って下さい。
- ・左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

	タイヤサイズ	空気圧kg/cm ²
タイヤ	3.25-5	1.2

その他の点検

- ・ベルト、ワイヤは初期伸びがありますので、新品から2～3時間運転後調整し直して下さい。
- ・本機を動かしながら、異常音、異常熱発生の有無を確認して下さい。
- ・各部を十分になじませるため、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ・作業後の手入れ及び定期的な点検も忘れずに実施して下さい。

各部ワイヤ・ベルト調整のしかた

▲ 注意

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。

■ 主クラッチワイヤ調整

図1を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

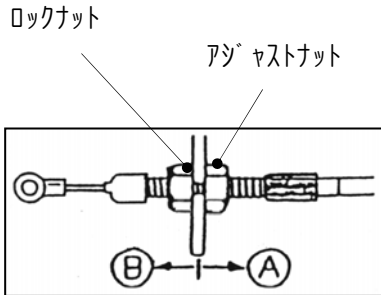


図 1

□ 走行クラッチを入れても負荷がかかるとベルトがスリップして本機が停止する場合。

…アジャストナットをBの方向へ…

□ 走行クラッチレバーを切ってもベルトが付回りし機械が停止しにくい場合。

…アジャストナットをAの方向へ…

■ ベルト調整



図 2

主クラッチレバーが「入」位置のとき、ベルト中央部を軽く指で押してみても5~6mm程度のたわみがあれば正常です。主クラッチの調整だけで上記基準値以内にベルトのたわみが収まらない場合には、図2を参考にエンジンを前方へずらしてベルトの張りを調整して下さい。

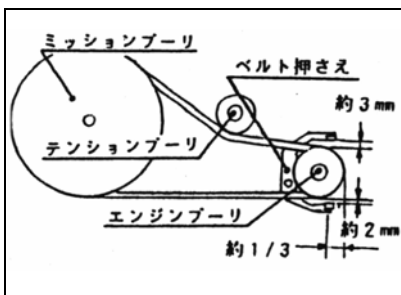


図 3

ベルトの交換・調整を行った場合には、同時にベルト押さえの調整も行って下さい。主クラッチレバーが「入」位置のとき、ベルトとベルト押さえの間隔が上側で約3mm、下側で約2mm程度になるようにベルト押さえの位置を調整して下さい。

目安として、主クラッチレバーが「切」位置のとき、ベルト押さえがエンジンプーリの1/3程度の位置でベルトを軽く押さえ、ベルトがエンジンプーリの溝より軽く浮き上がるようにセットします。

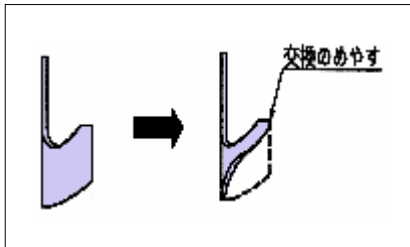
ベルトサイズ	LA28-SG1000×1本
調整時期	初回：2～3時間目 以降：50時間運転毎

■ 調整後は、ロックナット・ボルト等を確実に締めつけ、取り外したカバー類は元通りに取り付けておいて下さい。

耕うん爪の点検と交換のしかた

⚠ 警告

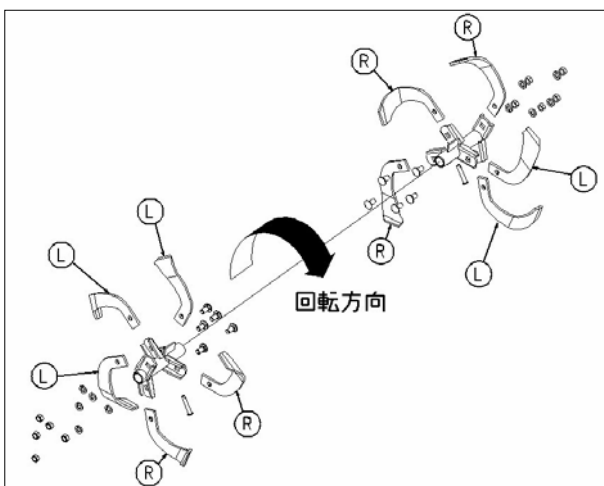
耕うん爪の点検及び交換は、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。



■ 耕うん爪の点検

耕うん爪は始業前に必ず損傷・曲がり及び摩耗を点検して下さい。又、爪取付部のガタがないかも点検し、もし弛みがあれば増し締めをして下さい。

■ 耕うん爪の交換と配列



左図のように耕うん爪が磨耗した場合、新品と交換する事をお薦め致します。

耕うん爪の交換は同じ向きの爪を一本ずつ交換して行って下さい。

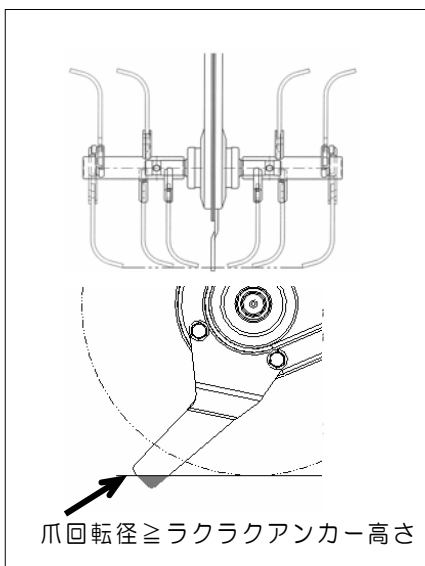
もし、途中で取り付け方法が判らなくなった場合、左図を参考に正しく取り付けして下さい。

また、耕うん爪には曲り方向によって①、②の区別があります。回転方向に注意して取り付けして下さい。

参考：ローター軸脱着時には、側板を取り外して作業すると容易になります。

らくらくアンカー交換の目安

●らくらくアンカーが下図のようになったら交換して下さい。



⚠ 警告

摩耗したらくらくアンカーをそのまま使用すると作業中のダッシングにより本機が前方向へ暴走し衝突、転落の危険があります。

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
1.	ベルト	89-6122-002803	1	LA28-SG1000
2.	らくらくアンカー	0019-60700	1	
3.	耕うん爪 L	80-1310-821-00	5	刻印 AR50L
4.	耕うん爪 R	80-1310-822-00	5	刻印 AR50R
5.	爪取付ボルト	85-1321-836-00	10	M10×20
6.	小型六角ナット	89-1611-100042	10	M10
7.	バネ座金	89-1750-100002	10	Φ10
8.	主クラッチワイヤ	0021-70900	1	
9.	スロットルワイヤ	83-1260-951-00	1	
10.	警告ラベル	83-0001-906-00	1	火災により…
11.	//	0253-72500	1	車への乗せ降ろし…
12.	GRラベルC	0279-70800	1	このカバーなし…
13.	操作方法マーク	0021-70600	1	ハンドル位置…
14.	エンジン始動ラベル	0019-70800	1	エンジン始動方法
15.				
16.				

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	エンジン工具	エンジン付属	1	
4.	両口スパナ	12×10	1	
5.	両口スパナ	17×14	1	
6.	六角レンチ	5	1	

《仕 様》（参考数値）

名 称	Herb 耕耘機	
型 式	HT40W	
全長×全幅×全高(mm)	1,150×465×1140（ハンドル収納時 1,020×465×490）	
重 量 (kg)	42	
タイヤサイズ	3.25-5（φ280）	
ハンドル上下	上下菊座調節式	
主クラッチ方式	デッドマンクラッチ(ベルトテンション)	
操向装置	—	
ベルト（本）	LA28-SG1000×1	
ロータリ 回転数(rpm)	136	
速度(Km/h)	前進	①0.78（作業） ②3.54（移動）
耕 巾 (mm)	400	
爪 数 (本)	ナタ爪 L5本 R5本（計10本）	
エ ン ジ ン	名 称	カワサキ
	型 式	FJ100D-DG80
	排気量 (cc)	98
	潤滑油量 (ℓ)	0.5
	最大出力(PS/RPM)	3.0/4000
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	BR6HS
タンク容量 (ℓ)	1.9	

※本仕様は予告なく変更する事があります。

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月次	年次		
原動機	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○	
	②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○	
	③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○	
	④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。		○	○	
	⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 *（正常締付トルクで弛みはないか）			○	
	*⑥弁すきま	（正規の隙間であるか）			○	
	*⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○	
	⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○	
潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入	○	○	○	
	②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○	
燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○	
	②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○	
	③燃料の量・質。	燃料が入っているか、又質は良いか。	○	○	○	
電気装置	①電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○	
清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○	
	②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○	
冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○	
	②マフラーへの草屑等の堆積。	マフラー周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○	
伝達装置	ベルト	①弛み。	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッショ	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
②油量、汚れ。		オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○	
③油漏れ。		オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○	
車体	車体	①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落は		○	○
	カバー	②亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー及びワイヤ	①レバー及びワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ヒ	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落は	○	○	○
走行装置	タイヤ (ホイール)	①空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	①損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
残耕が残る。	爪の摩耗。	爪を交換する(爪交換時は全数交換の事)
	爪の取付方が間違っている。	爪を正しく取り付ける。
ダッシングする。	作業抵抗が大きすぎる。	作業深さを浅くする。
	圃場が固い。	2回以上に分けて作業する。
	らくらくアンカーが磨耗している。	らくらくアンカーを交換する。
平面耕ができない。	爪の取付方が間違っている。	爪を正しく取り付ける。
ベルトがスリップする。	ベルトの張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	ロータリカバー内に異物が詰まっている。	ロータリカバー内を清掃する。
	圃場が湿っている。	圃場が乾くのを待って作業を再開する。
	ベルトの摩耗。	ベルトを交換する。
タイヤがスリップする。	作業抵抗が大きすぎる。	作業深さを浅くする。
	ロータリカバー内に異物が詰まっている。	ロータリカバー内を清掃する。
	圃場が湿っている。	圃場が乾くのを待って作業を再開する。
作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。
抵抗棒、耕深調節棒が操作不能	抵抗棒、耕深調整棒に泥や草が詰まっている。	泥や草屑等の異物を取り除く。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジン冷却時、チョークレバーを N 位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックを取り外し、コック内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	*点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	*リングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	*点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。